Buzanbussei
Buyu

題字　田代弘興　猊下

豊山太鼓「千響」結成10周年
歴代委員長インタビュー

学友

第162号

http://bussei.gr.jp/

千響歴代委員長インタビュー 前編

野々部：平成三十年度、千響結成十周年ということで結成に関してや苦労話などを伺えればと思います。

木村：まあ、結成に関していえば馬場さんだよね。

馬場：平成十九年に名児耶照教会長の時代だよね。豊山仏青が五十周年の節目を迎えた。その時に、新潟でコンサートを開きたいと…そしたら、どんどんアイデアが広がっていって、あの…なんだっけ…中国の…。

木村：ああ、千手観音ね！

馬場：そう、千手観音。そこに新潟の吉田真澄さんがゴスペルなんか入れたら、かたや仏教、かたやキリスト教で良いんじゃないかということで始まったら、新潟中越沖地震が起きた。それで、やるからには中越沖地震が起きたからこそやるんだってなって、声明と曼荼羅の公演、「『響愛』～復興への祈り～」をやったんだよね。あれだけ大きな規模の公演っていうのは、平成五年にやった日本武道館以来のコンサートだよね。

木村：武道館の縮小版って感じですかね。

馬場：その時、初めてコンサートの中に太鼓をいれようって話になって五十人の太鼓師が集まった。それがきっかけで次の年の鈴木道盛会長の時に、「千の響き」といって、ちょうど当時千人の仏青会員がいるということが名前の由来。

野々部：その前は母体となるようなものがあったんですか？

馬場：その前は、たまたま埼玉二号支所に「龍太鼓会」というのがあって、月に一回埼玉二号の有志が集まって太鼓を続けてきた。それが飛び火して埼玉二号から埼玉三号に行って…埼玉四号に行って…埼玉一号に行って…そこで太鼓をやっていたメンバーが五十人くらいになったんだよね。それと東京四号の善養寺の施餓鬼会で何回か叩かせてもらったら、東京四号周辺の江戸川の人たちが集まって太鼓をやり始めて、「それなら」ということで善養寺さんが太鼓十台を購入して、みんなに貸してあげるとなって…。ああいう先生に長生きしてもらいたいのに、みんな逝っちゃう…木村さんも気をつけてね…。

木村：まだ俺若いって！（笑）新潟の公演の前から結成しようという話はあったんだよね。新潟の公演の随分前ですよね？馬場さんが御詠歌研修所の時だったか卒業してすぐ後だったかな。自分が詠秀で御詠歌大会に出た時に馬場さんと会って、「太鼓隊作るから、頼むよ」って言われたことがあって、本当にやるのかなって思っていたら、本当にやっちゃったんだよね。びっくりした…（笑）

馬場：それより以前は豊山鳴物隊って言っていたんだよね。日本武道館の時は。鳴物の集まりで鈸とか鐃とか。

野々部：では武道館の時は太鼓に特化したものではなく鳴物で公演を盛り上げるみたいな部隊だったんですか？

馬場：そうだね。でも、やはり結成にあたって一番大きかったのは新潟の公演で太鼓を叩いたメンバーが仏青だったからだよね。名児耶会長が五十周年の事業をやって、次の鈴木道盛会長が新たな豊山仏青の歴史を刻もうという強い想いがあって、その中でお大師様のお導きがあったのかな…導かれるように自然と千響が結成した。

野々部：武道館が始まりだったんですね。結成にあたって苦労したこととかありましたか？

清福寺

馬場：う～ん、何もないね～。ありがたいことに太鼓が好きな人の集まりだから、なにも揉め事もなく楽しいことしかなかった。

木村：後はここ（清福寺）だよ。練習場がこだったんで、遠い人は遠いけど何十人が叩けるって場所ってあんまりないから。ここに固定できたのが進化していく要因の一つになっただろうしね。

野々部：あ～、環境が整っていたんですね。

馬場：あっ、苦労話一つある。太鼓の管理。結成以来、倉庫二つ買ったから。

野々部：清福寺で練習する太鼓って、全てここで管理されているんですか？

馬場：そうです。あとは千響運輸っていう

団体があって(笑)

一同:(笑)

馬場:要は宅急便屋じゃないけど、太鼓の積み下ろし。みんなの協力がなかったらここまで続かなかった。

木村:全部、自前だもんね…。

野々部:他にも千響が進化する要因になったことはありますか?

馬場:これだけ千響が大きくなったのは、色々な人が隔たりなく活動できることかな。例えば千響は女性が活躍できる場所。荻野さん、鴨志田さんが女性で初めて太鼓隊に入ってくれたことが大きいよね。そこから女性でも入れるんだってなって、今女性は六人くらい在籍しています。

それと、嬉しいのがコンサートに職衆として出て、自分も太鼓を叩きたいって思って千響に入ってくれるのがありがたい。千響には若い子からベテランまでいる。事相の先生もいるし、布教・御詠歌のスペシャリストもいるし。

野々部:幅広い人材がいることは強みですね。

馬場:そうだ、千響の結成と言えば、林英哲さんの話もしたい。

野々部:そもそも林英哲さんとは、いつからお付き合いがあるんですか?

馬場:日本武道館からだね。六大響を作ってもらって。

野々部:林英哲さん作曲は、どの曲ですか?

馬場:六大響、千の海響が結成前からあって、不動響炎、明星来影、千響囃子、この四曲を作ってもらった。千響囃子は、六大響くらい簡単な曲を作って下さいと言ったら物凄く難しい曲を作ってくれて(笑)

一同:(笑)

馬場:南無大師遍照金剛~空と海~という曲が千響で作った曲。もともと、英哲さんは御室派のお寺の出身ってこともあって、長いお付き合いをさせてもらっています。

◆

野々部:馬場さんが立ち上げて、その後、木村さんが委員長になる訳ですよね?

馬場:私は正味一年だったよ。立ち上げとサントリーホールの『千響』発足記念コンサート~いのちのひびき~「千響」だね。自分が長谷寺の研修所だった頃、木村さんが学院生でその頃仲良くなって、二代目の委員長は絶対木村さんだと思っていたから。

木村:副委員長をやったら次の委員長をやることになっているから。副委員長は二人いるから、どっちになるかわからなかったけど、断る理由もないし。

野々部:具体的に何が大変でしたか?

木村:東日本大震災だよね。三月十一日だから委員長の一年目が終わりの頃でしょ。一年ようやく終わったな~なんて思っていたら東日本大震災があって。そこからボランティアに行き始めて、福島の相馬が拠点となって、現地に行って、視察して、法要で太鼓を叩いて、という二、三、四年目。

白井:それと西新井大師ですよね。

木村:そうだね。西新井大師と巣鴨 眞性寺ね。最初、西新井大師でその後、縁日に眞性寺でやるようになって。苦労というか毎月やるっていうのも大変だよね。

野々部:毎月やるとなると叩く人を探すのも大変ですよね?

木村:ありがたいことに、みんな来てくれていたんだよね。でも、みんな集まってやると楽しそうにやっちゃいけない訳じゃないんだけど、あんまりヘラヘラしていてもいけないし。チャリティーだから、ちゃんと被災地の現状をお話して募金をお願いする訳だから、あんまりニコニコしていられないっていのも辛いものがあったね。

野々部:では、その時は現地で慰霊とか復興の法要で太鼓を叩いて、そこで見た現地の様子を持ち帰って、西新井大師・眞性寺で現地の状況をお話して、義援金を募ってという感じだったんですね。

木村:でも立場上、挨拶とかしなきゃいけないけど、委員長って長がつくだけで、やることはみんな一緒だからね。

野々部:在任中に大きいコンサートとかはありましたか?

馬場:木村委員長の時には、実はエジプト公演の話があって…。

木村:忘れていたよ!(笑)

馬場:暴動が起きて、太鼓が五ヶ月帰ってこなかった。

猪狩:アラブの春ですね。その一週間後に東日本大震災が起きて。本当はエジプトで世界平和を祈願しようとしていたのに、日本で地震が起きてしまって…。あと、上野精養軒コンサートとか?

木村:それがエジプト公演の代わりだったんでしたっけ?そういうコンサートもやっていたんですね。忘れていたよ。

野々部:その頃、定期的に公演をやっていこうという考えはあったんですか?

木村:やろうと言っても大義名分がないからね…。震災があって方向性がチャリティーの方に向かっていった。でも、その中でもチャリティーの活動であったり、新曲を作ったり、幅を広げることができたから。

馬場:自分たちもコンサートとか正しいとは思っていないよ。好きで太鼓叩いているだけだから。だけど、コンサートに死を覚悟している人が、たまたま誘われてコンサートにきて、死ぬのを止めようって思ったとか。なにか目に見えない祈りのパワーがあるみたい。

木村:涙を流す人もいたりね…。

馬場:そう。震災の時なんて、想いは人それぞれだから。頑張って主人の分まで生きていこうと思いましたとか。その思いはやっぱりね…。僕たちもそういう声を聞くとまた頑張ろうって思って疲れも取れる。だから十年続いた。やっぱり喜んでくれた人がいたからこそ自分たちも元気をもらってここまで来られた。

木村:西新井大師なんて直接だからね。毎度来て「少ないけどすみません」って言いながら募金してくれるのが嬉しくてね。直接の声って良いですよね。初めは距離が近くて小恥ずかしかったけど、慣れると快感じゃないけどね。

(次号に続きます。)

災害協定締結

真言宗豊山派仏教青年会では、
石井食品株式会社様並びに株式会社レヴォレーター様との
災害協定を結ぶ運びとなり、8月3日（金）に宗務庁舎にて調印式を執り行いました。
この協定は、災害時に豊山仏青のネットワークを活かし、現地の状況を把握し、
食品会社である石井食品様が食品を提供し、
キャンピングカーレンタル会社であるレヴォレーター様が
物資の運搬とシャワーやトイレなどの居住空間を確保する仕組みとなっています。
また、それに伴いまして、各企業とのタイアップ企画を進めています。

非常食セット

災害時の備えとして、寺院で備蓄できる非常食セットを石井食品様と豊山仏青で考案致しました。災害に強い寺院を目指して、是非ご検討いただければと存じます。

キャンピングカー巡礼

もっと、巡礼を身近に感じて欲しい。そのような想いからレヴォレーター様の協力のもと、キャンピングカーで巡礼を致しました。次号から連載していきます。

キャンピングカーのレンタルは
CAMP IN CAR
キャンプインカー
https://camp-in-car.com/

写仏講座

平成30年
12月14日（金）
午後1時より宗務所にて

詳細につきましては豊山仏青ホームページをご覧ください。
また豊山仏青ホームページ、写仏講座の中の「写仏を体験してみよう」では、体験コーナーをご用意してあります。なぞってみたり、お子さまの塗り絵としても、ご活用ください。

編集後記

本年度、千響が十周年を迎え、千響の歴史を振り返るとともに、これからの千響について語っていただきたいと思い歴代委員長にインタビューをしてみました。予定では本号で完結するはずでしたが、歴代委員長の「アツい想い」をお聞きしていたら、インタビューが盛り上がってしまったので次号で後編をお届けします。
そして、本号より『豊友』は正住寺院にのみお届けをして、会員にはHPより閲覧していただくこととなりました。記載のパスワードでログインしていただき、いつでもどこでも気軽に『豊友』を読んでいただけたら幸甚でございます。

豊山仏青広報次長　野々部 利生

写仏講座・千響チャリティー演奏は

豊山仏青　検索

Facebook
www.facebook.com/buzanbussei/

豊友お問い合わせ先
webussei@gmail.com

豊友　第162号

平成30年12月5日発行
発行人　林 映寿
発行所　〒112-0012　東京都文京区大塚5丁目40番8号
真言宗豊山派宗務総合庁舎内　真言宗豊山派仏教青年会
デザイン・印刷　株式会社 ディー・エイ・ティ・コーポレーション